

リスタート研修報告

2013年11月18日～29日

児童養護施設 子供の家 三美園

実地研修の場で学ぼうと考えていたこと

①アウトリーチの技法全般について。

・特に相手と関係が悪くなったときにどう乗り越えたらよいか。

②他業種との連携のあり方。

・どこと連携しているか

・役割分担をどのようにしているか。

特定非営利活動法人リスタートの概要

○プロフィール

- ・平成8年、代表が個人的に不登校・ひきこもり状態にある青少年、学童に訪問支援を始める。
- ・平成10年、団体名称を「岡山ひかりクラブ」として、ボランティアを募り活動を始める。
- ・平成15年、団体名を「リスタート」とし、対象者をニート状態にある若者まで広げる。
- ・平成18年、団体名を「特定非営利活動法人リスタート」として登記、厚生労働省「地域若者サポートステーション事業」受託。

現在のリスタート活動内容

○地域若者サポートステーション事業

- ・岡山、津山、倉敷の3か所
- ・就労支援プログラム、体験型プログラム、コミュニケーションプログラム など。

○ひきこもり地域支援センター事業

- ・岡山市ひきこもり対策推進事業の一部を受託。岡山市ひきこもり地域支援センターのスタッフと訪問、プログラム活動。

○アウトリーチ事業

○寮・アパートでの自活支援事業

○その他

- ・フードバンク事業

就労支援プログラム 「レスパール藤ヶ鳴」



期間1ヶ月、有料。好きな職場を選択できる。

プログラム終了後、研修生が希望すれば、
アルバイト契約に移行できる。



就労支援プログラム 「山陽ハイツ」



期間1ヶ月、寮生活、有料。午前中はセミナー、
午後は職場体験を行う。

プログラム開始3日目。利用者に「これからの目標」を記述してもらう。

体験型プログラム ボランティア活動 ゴミ拾い



サホステ周辺の路地と公園を、ゴミの収集をしながら1時間ほど歩く。



拾ったゴミは事務所で選別。ビルのゴミ置き場に移送する。

寮での自活支援



3人で共同生活。
スタッフが料理の仕方を教え、ノートに記録されている。
交代で買い物、食事の支度をしている。

リスタートのアウトリーチ

○アウトリーチ同行

〈兄弟二人がひきこもり状態の家庭〉

- ・家庭：祖母（認知症）、父（退職し自宅在住）、母（仕事）、兄（26歳）
弟（18歳）
- ・面談の経緯：両親がリスタート訪問。有料の訪問支援を契約
訪問3回目
- ・面談形式：兄と弟を別々に面談（兄弟の仲が良くないため）。兄は1階の居間、弟は2階の自室で行った。兄弟の面談後、父親が面談内容を聞いたがっていたが、あまり説明せず退出した。

リスタートのアウトリーチ

○担当者の面談スタイル

- ・アルバイト選択の際、利用者と一緒に求人誌をめくりながら、その仕事の内容について詳しく解説していた。スタッフ自身がアルバイト体験が豊富なことにより、利用者にとって有益な情報を提供できていた。

リスタートのアウトリーチの感想

○スタッフ自身のひきこもり体験を、利用者へのアドバイスに上手に昇華させることができている、言葉に説得力があった。

※自分の武器(セールポイント)を持つことが重要。

○その一方、利用者に対して指示が細かすぎることで、利用者の自主性を阻害することにならないか危惧した。

○アウトリーチの頻度もサポステの都合によるもので、利用者の希望が考慮されないところが気になった。

※自分も同じことをしており、反省させられた。

サポステの学校連携

○OK高校、3年女子不登校の事例

・相談の経緯:サポステスタッフ(PSW)が学校を訪問し、サポステの活動をPR。その後、不登校生徒の担任から相談の依頼があり、スタッフが訪問。その最初の連携会議に同行。

・生徒の状況:介護コースの3年生。父、母、本人、妹、弟の5人家族。両親の躰が厳しく、父親は暴力をふるう傾向あり。中学生のころからリストカットを始める。3年生になって欠席が多くなり、11月にうつ病と重篤なリストカットで入院した。

・生徒の将来に対する考え:1月の介護福祉士試験に合格。卒業後は家を出て寮のある介護施設への就労を希望。

※現在の学力で合格は難しい状況

サポステの学校連携

○スタッフが提案したこと

・病院内で行われる医師と家族の会議の内容について、スタッフの知人でその病院に勤務するPSWから情報を収集し、それを学校に伝達する。

※後にその会議にスタッフが呼ばれることになった。

・退院後、受験勉強を効果的に進めるため、サポステの勉強プログラムに参加してもらう。スタッフ自身が受験指導を行う。

・受験が不合格の場合でも、本人の希望に沿った就職先を紹介し、就労を目指す。

学校連携会議の感想

○スタッフが学校から信頼されている。

・PSWとしての専門性が高く、医療機関との連携がスムーズ。

・活動が迅速で具体的。

※心理の関わり方と異なる。(心理は病的な面に焦点を当てやすい)

・卒業後の対応も充実している→学校側としてはありがたい存在

○担任、教育相談担当、学年主任とも生徒の進路に対して大変親身になっている。

・介護コースということと関係がある？

○雑談がなく、効率的に会議が進行していた。

・会議の主導権を握り、スタッフのペースで会議が進んでいた。

※自分の考え方の偏りを気づかされる良い機会となった。